

復職支援に関するアンケート結果（概略版）

【就業状況】

- 903人(64.8%)が歯科衛生士として働いていた

【離職者における復職への希望】

※離職者：現在歯科衛生士として勤務していない者 491人

- 229人(46.6%)が歯科衛生士として復職したいと回答した
- 年代別では、20代、30代の者は80%以上が復職したいと回答したが、40代以降は復職したい者が半数以下に減少した
- 勤務年数別では、復職したい者は「5～10年未満」の52.0%が最も多く、次いで「10～20年未満」78人(51.7%)、「5年未満」51人(41.8%)の順だった

復職の希望がある者について

【復職への障害】

- 「自分自身の知識、技術に対する不安」が140人(61.1%)と最も多く、次いで「勤務先の理解が得られるか不安」が100人(43.7%)だった
- 年代にかかわらず「自分自身の知識・技術に対する不安」の割合が多かった
20代では「勤務先の理解が得られるか不安」「給与や待遇等の勤務条件」が多かった

【復職先を探す方法】

- 「ハローワーク」が164人(71.6%)と最も多く、次いで「求人誌」157人(68.6%)だった
- 年代があがるにつれて「出身学校からの紹介」や「無料職業紹介所」の割合が高い

【復職のために望む支援】

- 「知識を習得するための研修」が152人(66.4%)と最も多く、次いで「求人先とのマッチングシステム」129人(56.3%)だった

【希望する研修や実習の内容】

- 予防処置や保健指導とともに、「口腔ケアや摂食嚥下に関する知識や技術」101人(57.1%)が多かった

【希望する勤務場所】

- 「診療所」が191人(83.4%)と最も多く、次いで「病院」67人(29.3%)、「介護関係施設」56人(24.5%)の順だった

【希望する勤務形態】

- 非常勤での勤務を希望する者が165人(72.1%)と最も多かった

復職の希望がない者について

【歯科衛生士として働きたくない理由】

- 「自分自身の知識・技術に対する不安」が138人(53.3%)と最も多かった

調査の概要

調査日時：平成 27 年 8 月 1 日～平成 27 年 10 月 31 日

調査方法：郵送配送、返信用封筒又は兵庫県簡易申請システムによる回収

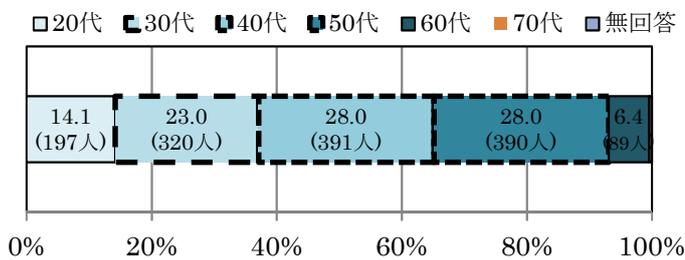
調査対象及び回収状況

配布数	回答数	回収率
3,580	1,394	38.9%

調査結果の概要

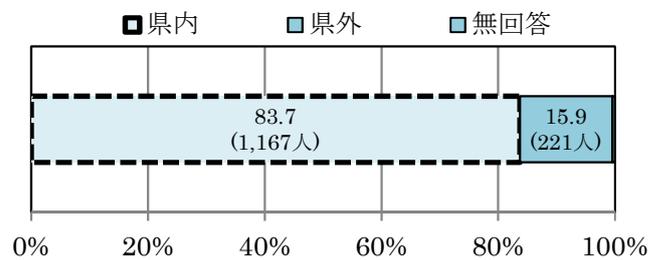
○回答者の年代 (n=1,394)

30代、40代、50代の回答者が多い



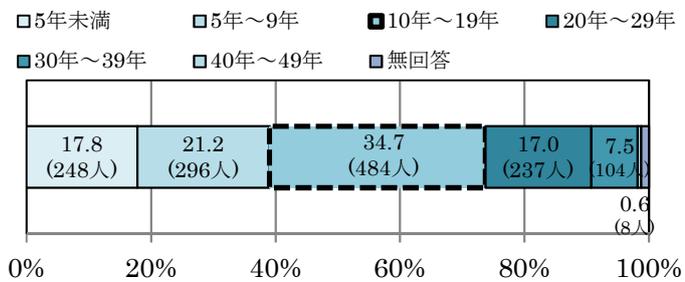
○回答者の居住地 (n=1,394)

80%以上が県内に居住していた



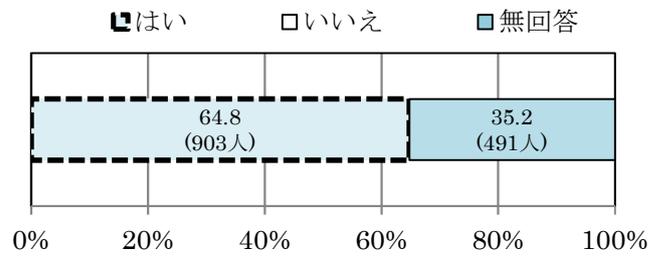
○歯科衛生士として働いた年数 (n=1,394)

10～19年が484人(34.7%)と最も多い



○就業状況 (n=1,394)

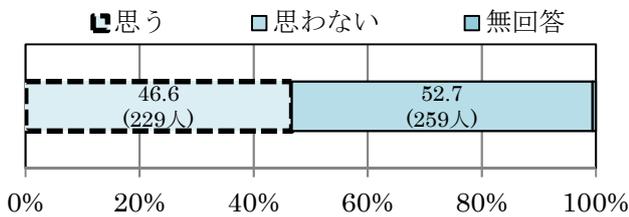
903人(64.8%)が歯科衛生士として働いていた



1 離職者（歯科衛生士として働いていない者）の現状

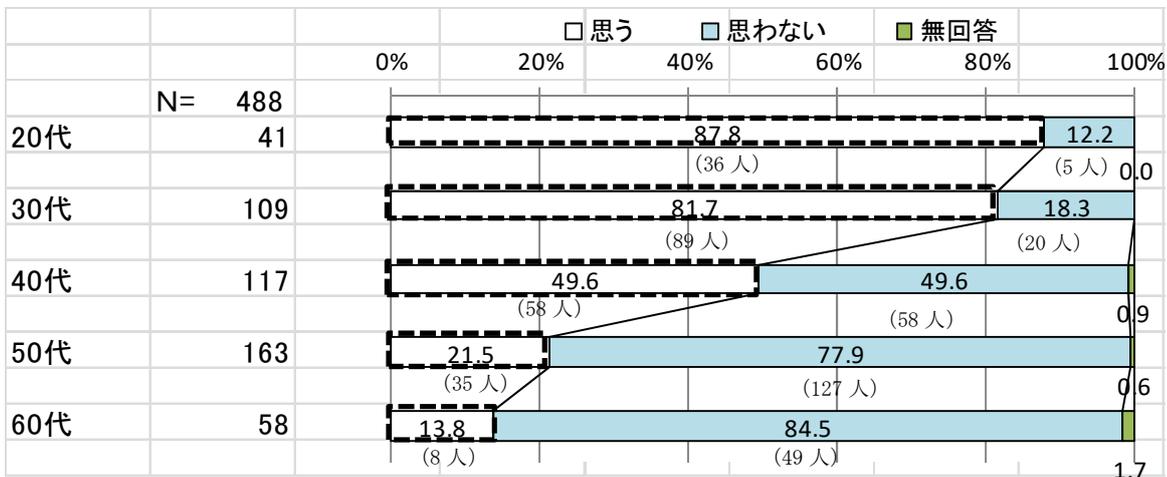
○復職への希望（n=491）

229人（46.6%）が歯科衛生士として働きたいと思っていた



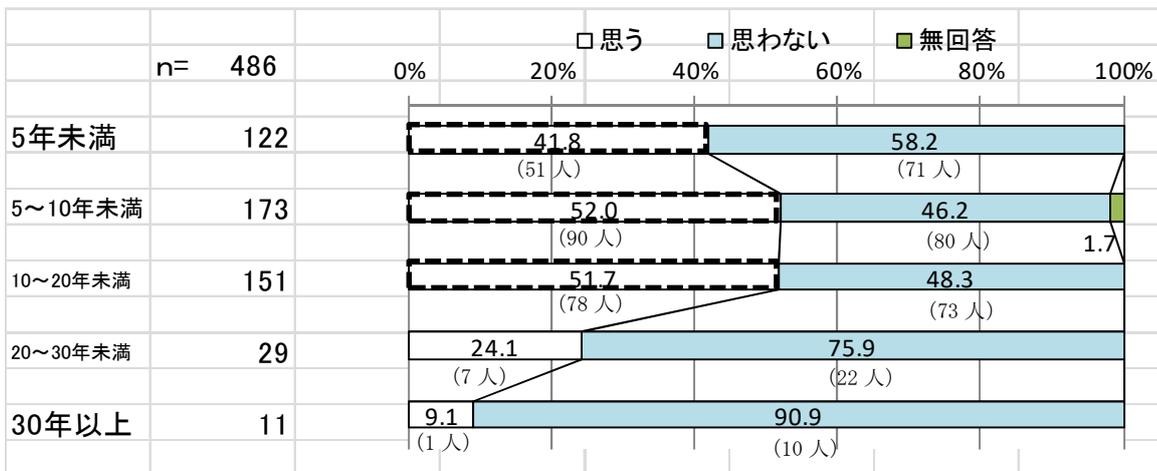
<年代別>※491人中、年代の回答があった488人の結果

20代、30代の者は80%以上が復職したいと回答したが、40代以降は復職したい者が半数以下に減少した



<勤務年数別>※491人中、年代の回答があった486人の結果

復職したい者は「5～10年未満」の90人（52.0%）が最も多く、次いで「10～20年未満」78人（51.7%）、「5年未満」51人（41.8%）の順に多かった。



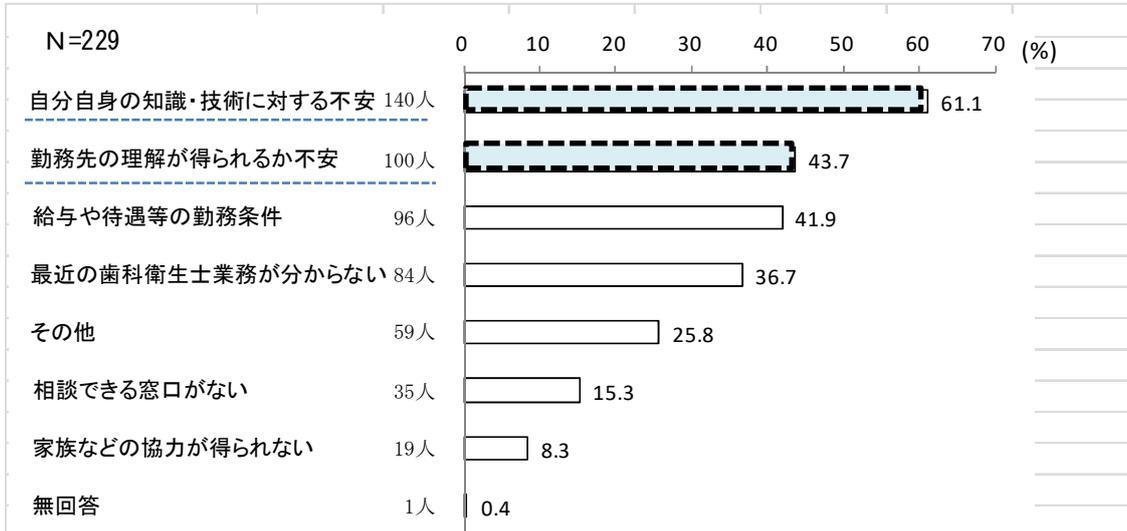
【まとめ】

離職者の半数近くが、復職の希望を持っており、特に年代が若いほど復職を希望する者が多い。また、勤務の経験年数が5年未満の者と比較すると、5年～10年未満及び10年～20年未満の方が復職を希望する割合が高かった。

2 復職の希望がある者について

○復職への障害 (n=229) ※複数回答

「自分自身の知識、技術に対する不安」が 140 人 (61.1%) と最も多く
次いで、「勤務先の理解が得られるか不安」が 100 人 (43.7%) だった。



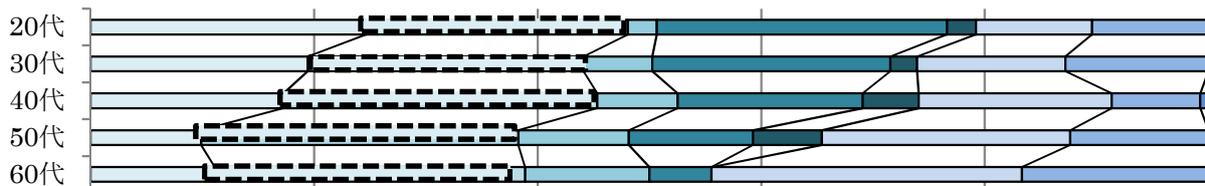
<年代別>※229 人中、年代の回答があった 226 人の結果

年代にかかわらず「自分自身の知識・技術に対する不安」の割合が多い

20 代の「勤務先の理解が得られるか不安」「給与や待遇等の勤務条件」の割合が多い (人)

区分	有効回答数	給与や待遇等の勤務条件	自分自身の知識・技術に対する不安	相談できる窓口がない	勤務先の理解が得られるか不安	家族などが得られない	最近の歯科衛生士業務が分からない	その他	無回答
20代	36	19	18	2	20	2	8	8	0
30代	89	41	52	13	45	5	28	27	0
40代	58	24	39	10	23	7	24	11	1
50代	35	8	23	8	9	5	18	10	0
60代	8	2	5	2	1	0	5	3	0
合計	226	94	137	35	98	19	83	59	1

- 給与や待遇等の勤務条件
- 勤務先の理解が得られるか不安
- 自分自身の知識・技術に対する不安
- 相談できる窓口がない
- 家族などが得られない
- 最近の歯科衛生士業務が分からない
- その他
- 無回答

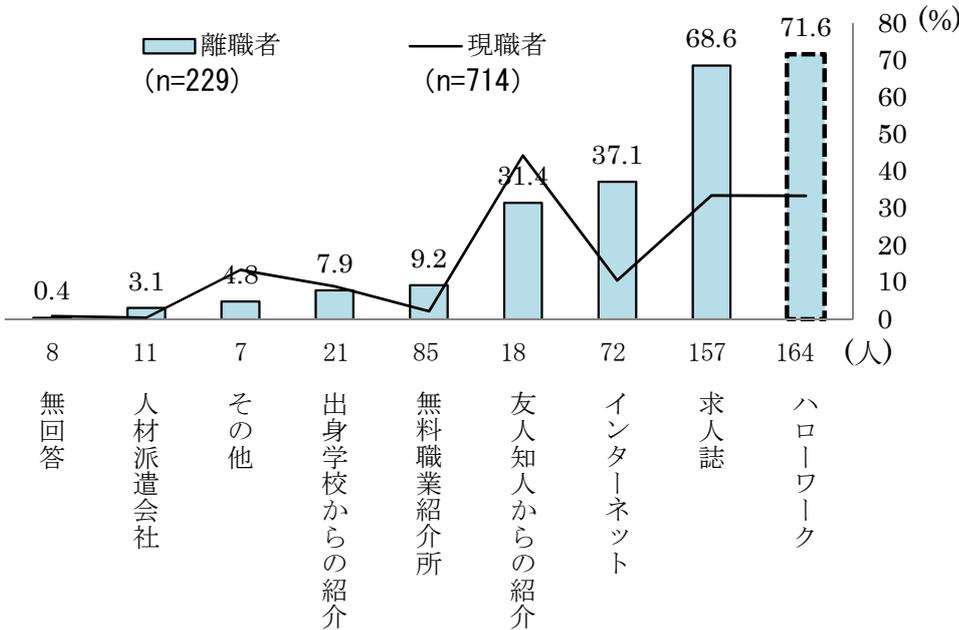


【まとめ】

年代にかかわらず「自分自身の知識・技術に対する不安」が多かった

○復職先を探す方法 (n=229) ※複数回答

「ハローワーク」164人 (71.6%) が最も多く、次いで「求人誌」157人 (68.6%) だった。



※現職者：現在歯科衛生士として働いている者が実際に復職先を見つけた方法

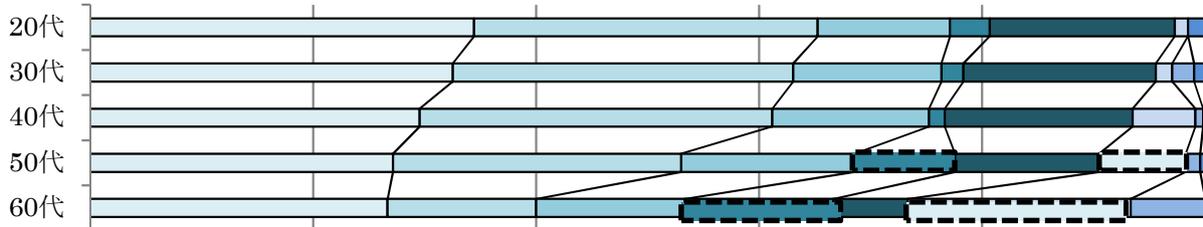
<年代別> ※229人中、年代の回答があった226人の結果

年代があがるにつれて「出身学校からの紹介」や「無料職業紹介所」の割合が高くなる

(人)

区分	有効回答数	ハローワーク	求人誌	友人・知人からの紹介	出身学校からの紹介	インターネット	歯科衛生士会の無料職業紹介所	人材派遣会社	その他	無回答
20代	36	29	26	10	3	14	1	0	2	0
30代	89	66	62	27	4	35	3	4	4	0
40代	58	42	45	20	2	24	8	1	1	1
50代	35	21	20	12	7	10	6	1	2	0
60代	8	4	2	2	2	1	3	1	1	0
合計	226	162	155	71	18	84	21	7	10	1

- ハローワーク
- 求人誌
- 友人・知人からの紹介
- 出身学校からの紹介
- インターネット
- 無料職業紹介所
- 人材派遣会社
- その他

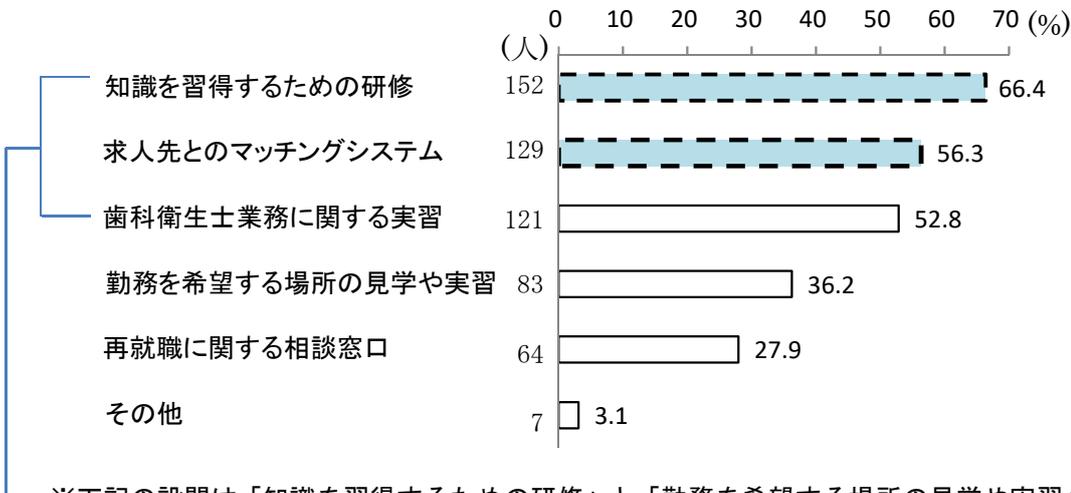


【まとめ】

実際に現職者が復職先を見つけた方法は、「友人・知人からの紹介」が最も多いのに対し、離職者が探す方法では「ハローワーク」や「求人誌」が多かった。
また、年代があがるにつれて、「出身学校からの紹介」や「歯科衛生士会の無料職業紹介所」の割合が多くなっている。

○復職のために望む支援（n=229）※複数回答

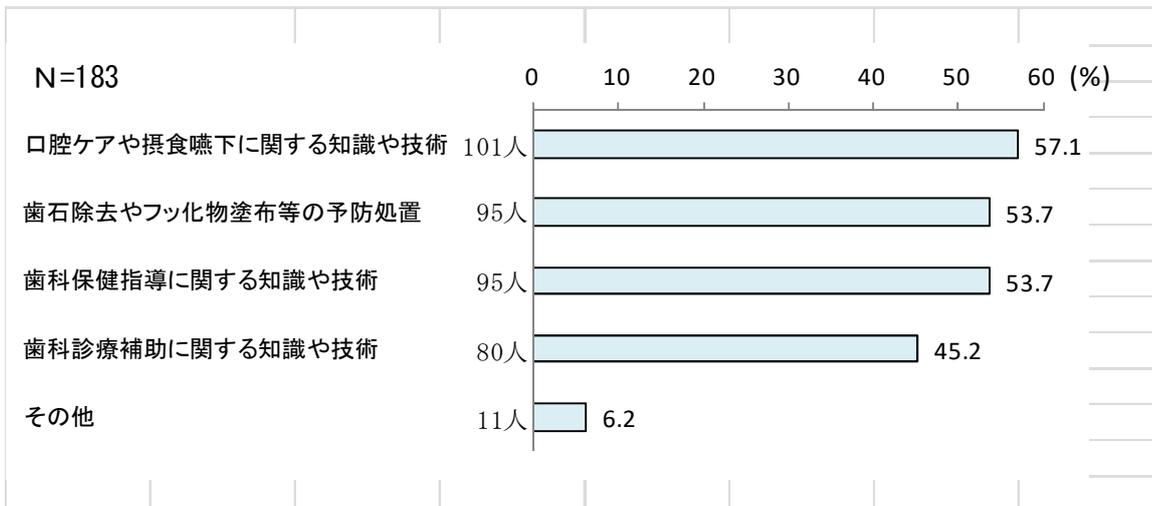
「知識を習得するための研修」が152人（66.4%）が最も多く、次いで「求人先とのマッチングシステム」129人（56.3%）だった。



※下記の設問は「知識を習得するための研修」と「勤務を希望する場所の見学や実習」を選択した者への設問

○希望する研修や実習の内容（n=183）※複数回答

「口腔ケアや摂食嚥下に関する知識や技術」が101人（57.1%）、と最も多く、次いで「歯石除去やフッ化物塗布等の予防処置」、「歯科保健指導に関する知識や技術」が95人（53.1%）だった。

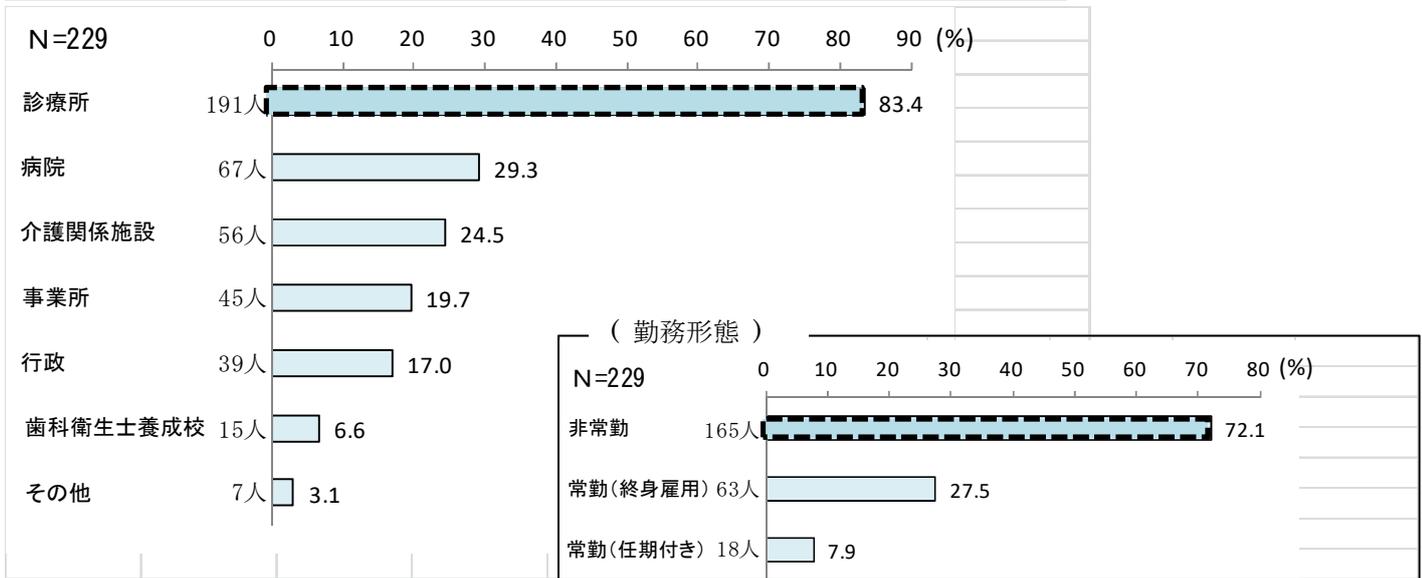


【まとめ】

復職するための支援には「知識を習得するための支援」を望んでおり、研修や実習の内容は、予防処置や保健指導とともに、「口腔ケアや摂食嚥下に関する知識や技術」が多かった。

○希望する勤務場所と勤務形態 (n=229) ※複数回答

「診療所」が191人(83.4%)と最も多く、「病院」67人(29.3%)、「介護関係施設」56人(24.5%)の順に多く、非常勤での勤務を希望する者が165人(72.1%)と最も多い。



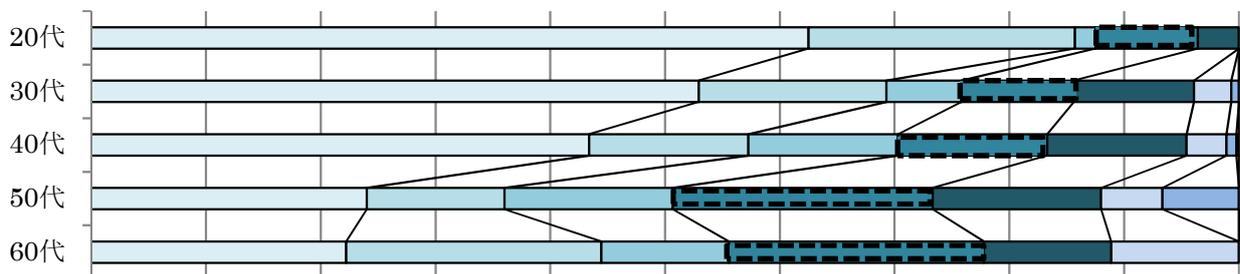
<年代別> ※229人中、年代の回答があった226人の結果

年代があがるにつれて「介護関係施設」の割合が高くなる

(人)

区分	有効回答数	診療所	病院	行政	介護関係施設	事業所	歯科衛生士養成校	その他	無回答
20代	36	35	13	1	5	2	0	0	0
30代	89	81	25	10	15	16	5	1	0
40代	59	50	16	15	15	14	4	1	1
50代	34	18	9	11	17	11	4	5	0
60代	8	4	4	2	4	2	2	0	0
合計	226	188	67	39	56	45	15	7	1

□診療所 □病院 □行政 ■介護関係施設 ■事業所 □歯科衛生士養成校 □その他 ■無回答



【まとめ】

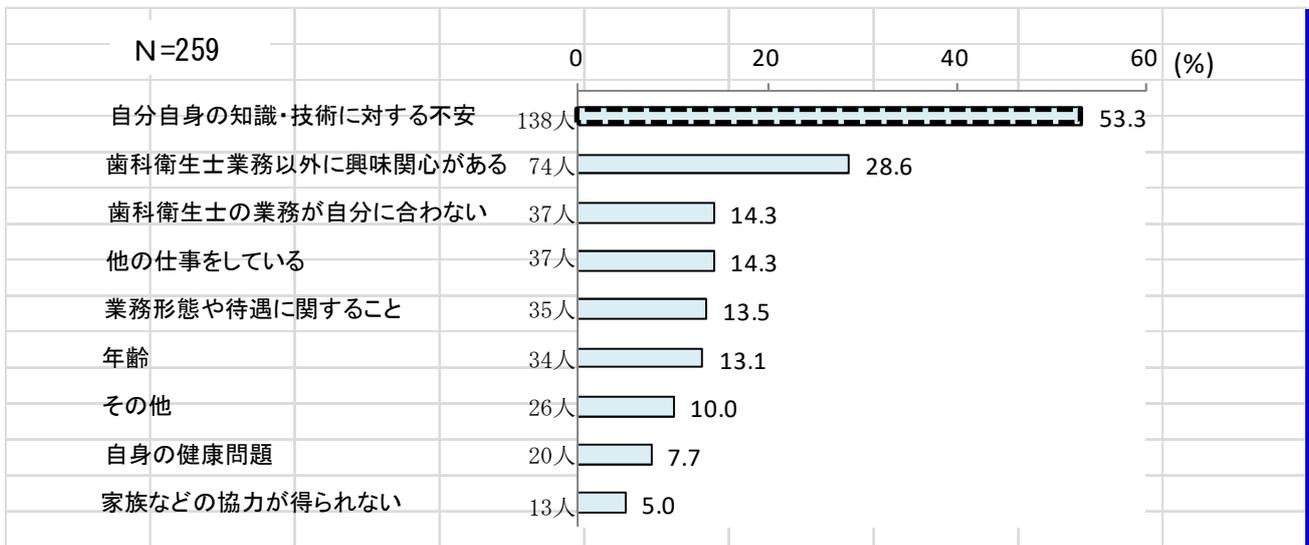
希望する勤務場所は「診療所」が最も多いが、年代があがるにつれて、「介護関係施設」を希望する割合が高くなる。

また、勤務形態については、「非常勤」を希望する者が多かった。

3 復職の希望がない者について

○歯科衛生士として働きたくない理由 (n=259) ※複数回答

「自分自身の知識・技術に対する不安」が 138 人 (53.3%) と最も多かった



【まとめ】

歯科衛生士として働きたくない理由としては「自分自身の知識・技術に対する不安」が最も多く、半数以上が回答していた。